



下肢静脈瘤の手術実施件数



下肢静脈瘤とは足の静脈が太くなってコブ状に浮き出て見えるようになった状態をいいます。症状は足がだるい、重い、痛い、かゆい、じんじんする、むくむ、冷える、こむらがえり（足がつる、足の色が黒くなる、潰瘍ができるなどが起こりやすくなります。特に長時間同じ姿勢で立ったままでいると、夕方に症状が憎悪することが特徴的です。朝にはむくみや痛みが軽減していることが多くみられます。かゆみも静脈瘤の症状であることが多く、静脈瘤の治療をするとよくなります。

さらに病状が進むと、足の皮膚の色がついたり（色素沈着）、皮膚のただれ（潰瘍）ができることがあります。こうなってからでは、治療に時間がかかり、きれいな皮膚に戻ることは難しくなります。

下肢静脈瘤は下肢の静脈の逆流防止弁が壊れた為に、そこに血液が溜り、ふくらはぎ辺りに血管がポコポコと瘤状に浮いて見える様になった物です。

妊娠・出産を契機に発症することが多いので、女性に多いと言われていています。また、立ち仕事に従事している人、特に歩き回らず何時間もたちっぱなしになるという場合は、下肢静脈瘤を発症しやすく、この場合には男性にも発症します。

発症後、自然に治ることはなく、年を経るごとに徐々に進行していきます。同情報元より、50歳代以上の患者が占める割合は、女性84%・男性74%とやはり年配の方の占める割合が高いため、加齢は下肢静脈瘤に関係すると言えます。

当院では専門医による治療・手術を毎週水曜日午前の外科外来にて行っています。

手術は症状により異なりますが日帰り～1泊で行えます。

近隣に同様の手術を行える医療機関がないことから、需要は増加傾向にあります



下肢静脈瘤の症例 1



下肢静脈瘤の症例 2

